大学生と漢字の書き誤り

——大学教育について一つの問題の提起——

町　田　恭　三

I. 調査の目的

終戦とともに日本の教育界もあらゆる面に亘つて大きな改革を受けたが、その後、年を経るに従つて再び検討を要する問題点も発見され、いろいろな面で今日再改革を受けている。勿論学習指導法のみに問題があつたわけではないのであるが、戦後の学生生徒の基礎学力の低下も、心ある人々によつて大分以前から叫ばれている重要問題の一つである。そこで私はその面における一つの問題を一段と強まつた形で取り上げるために、大学生における漢字の書き取り能力の実態を、試験の答案を通して調査し、それを心理学的見地から分析するとともに、戦後の教育反省への一資料を提供しようとするものである。

II. 調査の対象

（第1表）　調　査　対　象

	1 年生	2 年生
文科 A	44	43
文科 B	48	37
理科	45	50

（註）文科Aは国文学専攻学生である

W大学の学生計267名。その内訳は第1表の通りである。

III. 調査の方法

1. 誤字の調査には、1年生は心理学、2年生は青年心理学の答案を使用。

2. 誤字を書く条件の分析のためには、学業成績、性格、及び筆蹟学的分析結果と誤字量との関係を調査。

イ. 学業成績では、入学試験の際の国語、英語、数学、更に1年生では心理学、2年生では青年心理学の成績を使用。

ロ. 性格検査には、"田中向性検査"を使用。

ハ. 筆蹟学的分析は、漢字全体の大きさ、形、肩上り、書字速度、筆圧、署名の大きさについて行い、何れも度合の強いものを10点とし10点法で評価。

IV. 調査の結果

1. 漢字の書き誤りの実際の状況

イ. どのような誤字を書いているか、誤字の質的分析。

先ず誤字はうそ字とあて字に分類できる。そのそれぞれの例を次に示してみる。

うそ字　（辞書にない自作の漢字）……印刷の都合上省略

あて字　（その漢字自身は辞書にあるが、そのような時には使用しない。（　　）内の漢字が正しい用法の漢字）

（例）

垂（眼、民）（睡眠）	（審断、珍談）（診断）	（排掘、廃出）（排泄）	（抗撃、攻激）（攻撃）
遍圧（在）	明僚（瞭）	逃壁（避）	開止（始）
褐藤（葛）	還境（環）	曖味（曖昧）	終中（集）
防害（妨）	（共う、供）（伴）	（妄却、亡）（忘）	精心（神）
感象（情）	感念（観）	難労（勤）	談和（話）
（序々に、除）（徐）	生活に促して（即）	幻児期（幼）	誘陰性（引）
租止（阻）	分折（析）	低事（次）	自個（己）
反断（判）	高上（向）	（気憶、記億）（記憶）	消減（滅）
地減（域）	焦噪（躁、燥）	多きい（大）	多小（少）
性活（生）	証認（承）	状能（態）	優超（越）
仰制（抑）	描象（抽）	緊強（勉）	分秘（泌）
五管（感）	骨板（盤）	性微（徴）	怪擬（懐疑）

隔合（融）	劣頭感（等）	利多的（他）	他立的（律）
権意（威）	貢定（肯）	斜情詩序（抒）	人世（生）
思策（索）	汗渉（干）	低脳（能）	憧敬（憬）
拾得（習）	予循（矛盾）	禁張（緊）	罪を侵す（犯）
理実（現）	昌険（冒）	神夫（父）	続書（読）
復雑（複）	迫求（追）	飯食（飲）	

次に書かれた全部のうそ字とあて字を、当用漢字と当用漢字でない漢字に分類し、その比率をみてみると次の通りになる。

当用漢字の誤り……87.24%

（内訳）　教育漢字の誤り……46.64%

その他の当用漢字の誤り……40.40%

なお教育漢字の誤り 46.64 %を、その漢字の習得学年別に分け、その百分比をみてみると次のようになる。

（小学校の学年）	（%）
1	1.21
2	3.03
3	7.27
4	9.69
5	11.51
6	13.93

当用漢字でない漢字の誤り…… 12.72%

ロ．どのくらい誤字を書いているか、誤字の量的分析

第2表及び第3表に示す通り、1年生の場合も 2年生の場合も、90 %以上のものが100字中1字から2字ぐらいの誤字を書いている。

（第２表）　誤字の量的分析（１年生の場合）

	人員			誤字		
	総人数	誤字を書いた人数	総人数に対する誤字を書いた人数比(%)	誤字総数	１人平均誤字数	全漢字数に対する誤字数比(%)
文科A	44	40	90.90	223	5.06	1.44
文科B	48	46	95.83	264	5.50	1.57
理科	45	45	100.00	327	7.26	2.07
計	137	131	95.62	814	5.94	1.69

（第３表）　誤字の量的分析（２年生の場合）

	人員			誤字		
	総人数	誤字を書いた人数	総人数に対する誤字を書いた人数比(%)	誤字総数	１人平均誤字数	全漢字数に対する誤字数比(%)
文科A	43	41	95.34	260	6.04	2.12
文科B	37	36	97.29	240	6.48	2.28
理科	50	48	96.00	294	5.88	2.07
計	130	125	96.15	794	6,10	2.15

2. 誤字数から見た誤字を書くものの条件分析

イ．誤字数と専攻学科との関係

第２表、第３表、第４表、第６表に示す通り、誤字数と専攻学科との間には、特別の関係は見られない。

ロ．誤字数と学業成績との関係

１年生の場合

（第４表）　国語、英語、数学の成績との関係(r)

専攻学科／教科	文科A	文科B	理科
国語	—0.18	—0.31	0.07
英語	—0.28	—0.16	—0.10
数学	0.23	—0.05	0.09

（第５表）　心理学の成績$\left(\begin{matrix}M=71.80\\ \sigma=11.54\end{matrix}\right)$との関係

段階／得点の範囲／人数	Ⅰ ～54	Ⅱ 55～66	Ⅲ 67～78	Ⅳ 79～90	Ⅴ 91～
総人数	8	33	60	30	6
誤字を書い人数	8	33	55	30	5
誤字総数	42	194	368	193	18
１人平均誤字数	5.25	5.87	6.13	6.43	3.00

（註）○心理学の成績と誤字数との相関　r＝0.004
○心理学の成績は文科A、文科B、理科を合わせた成績

2年生の場合

（第6表）　国語、英語、数学の成績との関係(r)

専攻学科 ＼ 教科	文科 A	文科 B	理科
国語	0.17	0.32	0.05
英語	—0.04	—0.08	—0.08
数学	—0.14	0.04	0.01

（第7表）　青年心理学の成績$\left(\begin{matrix}M=72.17\\ \sigma=9.41\end{matrix}\right)$との関係

段階 ＼ 得点の範囲 ＼ 人数	I ～57	II 58～66	III 67～75	IV 76～84	V 85～
総人数	9	22	47	37	15
誤字を書いた人数	9	22	47	33	14
誤字総数	48	116	332	211	77
1人平均誤字数	5.33	5.27	7.06	5.70	5.13

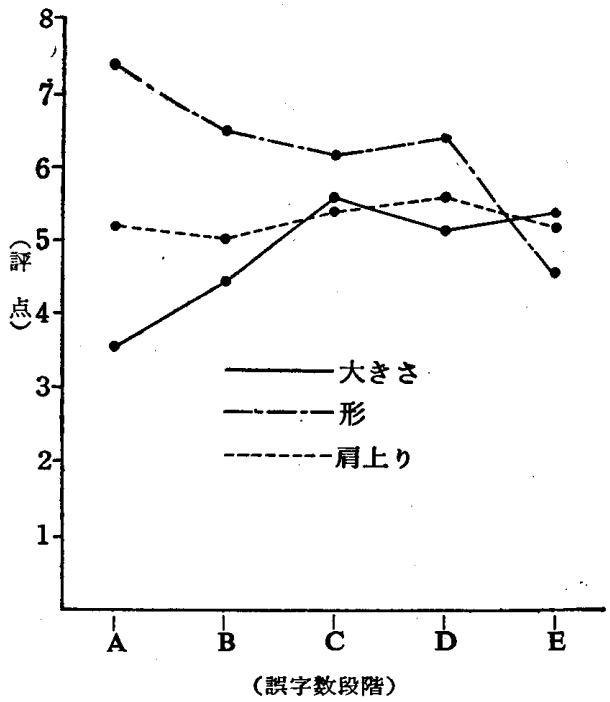
（註）○青年心理学の成績と誤字数との相関　r＝—0.01
○青年心理学の成績は文科A、文科B、理科を合わせた成績

第4表から第7表までに示す通り、誤字数と学業成績との間には、1年生の場合も、2年生の場合も、殆んど関係はないようである。

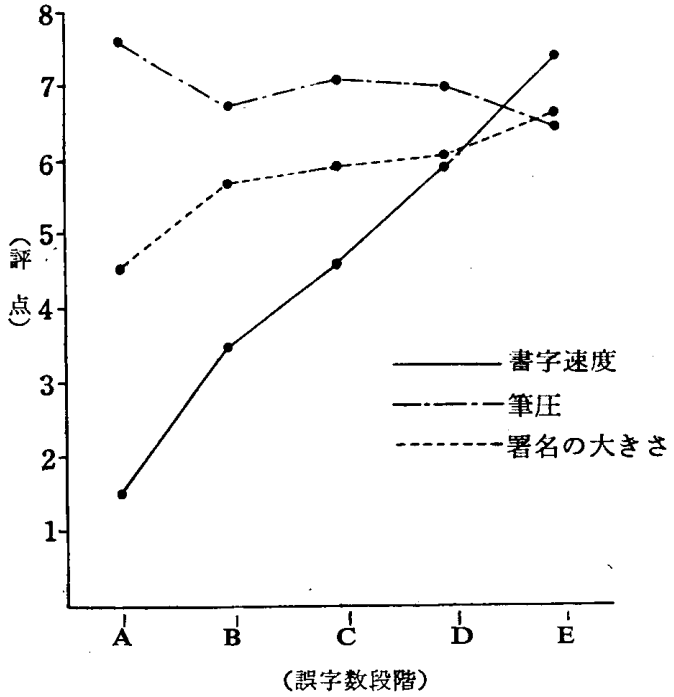
ハ．誤字数と性格との関係

誤字数と“田中向性検査”の結果との関係を調べてみたが、0.07 の相

（第1図）　誤字の筆蹟学的分析（I）



（第２図）誤字の筆蹟学的分析（Ⅱ）



（註）○誤字数段階の区分は一答案内の誤字数がA0,B1,C2～6,D7～11,E12～19である。
○採点は度合の最強のものを10点として配点し採点した。

関しか得られなかつた。即ち両者の間にも殆んど関係はないようである。

ニ．誤字数と筆蹟学的分析結果との関係

第１図及び第２図から、誤字数には、書かれた漢字の大きさ、形（直線的か、曲線的か）、書字速度、署名の大きさなどが、ある程度の関係を持つているように見受けられる。なおこれらのことが、性格との関係においてはどのように解釈さるべきかは、筆蹟学的に見ると、誤字の多いものは性格的には外向的のもので、誤字の少ないものは内向的のものということになるのであるが、筆蹟学のいう筆蹟と性格との関係については、心理学ではまだ認められていないので、ここではそのことをただ参考として述べておくに止める。

V．結　　び

以上私は大学生と漢字の書き誤りについて、答案を通してその実態を調査したのであるが、調査の結果 90 %以上のものが相当数の誤字を書いていることを知つた。漢字にはお互い実に苦労するのであるが、大学生における漢字の書き誤りのうち、その約90%が当用漢字で、そのまた半分が教育漢字であるとい

う事実はそのまま放置されてよい問題ではない。誤字の状況を見るに、勿論これらは高等学校まで、特に中学校までの問題ではあるが、これらの問題を荷つて大学まで来てしまつている以上、大学でも一つの問題として取り上げなければならないと思う。

私が提起した問題は漢字の誤字に関する問題だけであるが、これに類する問題は他の分野でもあるいは多々あるのではないかと思う。しかしこの度は漢字の誤字の問題だけを提起して、諸賢に一考を煩わすことを求める次第である。